

三鷹駅北口 街づくりニュース 第6号

(研究会(第4回)号)

■考え方4 沿道の街並み誘導と低利用地のまちづくり

考え方1～3の取組と併せて、沿道の街並み誘導と低利用地のまちづくりを推進することにより、居心地が良く歩きたくなる歩行環境の形成や回遊性の向上、駅前にあふさわしい都市機能の誘導を図るべきである。

■その他あわせて検討すべき事項

[自転車に関するご意見]

恒久的な自転車駐車場や自転車走行空間をにぎわいのエリアの外縁部に整備することにより、歩行者と自転車の動線の錯綜を解消し、自転車と共存した歩行者中心の街づくりを推進してもらいたい。

[自動車駐車場に関するご意見]

自動車駐車場をにぎわいのエリアの外縁部に誘導するとともに、既存駐車場を有効活用することにより、駅近傍に散在する駐車場を減らし、安全安心な歩行者動線の連続性を確保する等、歩行者中心の街づくりを推進してもらいたい。

[地域の景観、文化資源等に関するご意見]

今後の具体的な検討にあたっては、三鷹駅北口固有の豊かな緑と空の広がりや、様々な文化資源の価値を再認識したうえで、新たな街並みの中で愛され、次世代に継承されるように十分配慮してもらいたい。

■アンケート (令和5年3月23日(木) 必着)

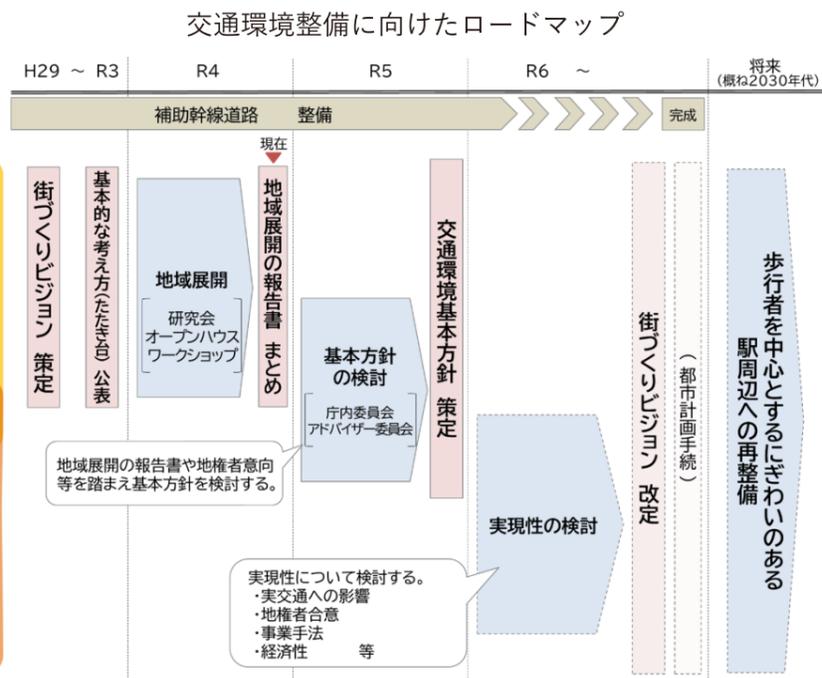
アンケートの受け付けは終了いたしました。

■今後の進め方

令和4年度は、地域展開(研究会、オープンハウス、ワークショップ)により主に必要性(地域ニーズ等)の観点で地域の方々の意向を取りまとめました。

令和5年度は、庁内・アドバイザー委員会を開催します。地域展開の報告書や地権者のご意向等を踏まえ、一定の実現性を見据えたうえで基本方針を策定する予定です。

その後は、基本方針に基づき、実現性の観点で検討を深め、歩行者を中心とするにぎわいのある駅周辺への再整備を目指していきます。



これまでの地域展開の取り組みの資料・記録は市のホームページでご覧いただけます

右記の二次元バーコードをスマートフォン等で読み取っていただき、市ホームページでご覧いただけます。

資料・記録



<https://bit.ly/3lwbB6n>

<問い合わせ>

武蔵野市 都市整備部まちづくり推進課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28
武蔵野市役所東棟4階
電話 0422-60-1872 FAX 0422-51-9250

関係団体による研究会を開催し

“歩行者中心”の交通街づくり

について意見交換を行いました

「三鷹駅北口街づくりビジョン」で描く目指すべき街の姿「住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街」の実現に向けた取り組みを進めています。

今後の駅周辺の再整備に向けて、“歩行者中心”の交通街づくりについて関係団体による研究会や庁内・アドバイザー委員会を開催し、検討を進めています。今回は研究会(第4回)での意見交換の内容と計5回の研究会での意見交換の内容を取りまとめた報告書をご紹介します。

検討プロセス



ここでは、これまでとこれからの取り組みを紹介します。これからの取り組みでは「三鷹駅北口交通環境基本方針」の策定に向けた考え方(以下「基本的な考え方」)に示す、交通環境の課題とその解決に向けた4つの考え方をたたき台として、検討を進めていきます。



■関係団体による研究会 **New**

令和4年2月から計5回にわたり、三鷹駅北口周辺の関係団体の皆さまと意見交換を行い、その記録を報告書として取りまとめました。

アンケートの受け付けは終了いたしました。

これまでの取り組み

■三鷹駅北口街づくりビジョン

概ね10年後の将来の目指すべき街の姿を描き、交通環境、土地利用、緑・にぎわいの3つの視点で実現に向けた取り組みを定めました。



■ENJOY OPEN TERRACEs 武蔵野

沿道店舗と協力し、歩道上に客席を設置することで、日常的に街なかでの食事や、ちょっとした休憩ができるような、滞留空間をつくり出す社会実験を行いました。令和4年度も実施しました。



■ENJOY OPEN STREETSs 武蔵野

地域の企業や団体と連携し、かたらいの道、桜通り等の公共空間を、車両通行止めにし、歩行者中心のにぎわいエリアとする社会実験を行いました。



■オープンハウス・ワークショップ

オープンハウスでは、地域のイベントに合わせて、パネルによる「基本的な考え方」の情報発信や意見収集を行いました。また、ワークショップでは、グループワーク形式で参加者同士が意見交換を行いました。



これからの取り組み

■庁内・アドバイザー委員会

令和5年度は地域展開の報告書や地権者のご意向等を踏まえ、学識経験者からの助言をいただきながら、交通環境基本方針を検討します。

研究会(第4回)を開催しました (中面)

三鷹駅北口交通環境基本方針の策定に向けた研究会（第4回）を開催しました

令和5年1月、三鷹駅北口の関係団体や交通事業者の皆さまと「基本的な考え方」をたたき台として、意見交換を行いました。

意見交換は「報告書（案）」、「今後の進め方」の2つのテーマで行いました。



日時：令和5年1月27日（金） 14～16時
場所：武蔵野市役所

▼会議次第

- (1) はじめに
- (2) 研究会（第3回）の振り返りについて
- (3) 庁内・アドバイザー委員会（令和4年度第1回）等の開催結果について
- (4) 報告書（案）について
- (5) 今後の進め方について
- (6) その他連絡事項

▼会議資料（抜粋）

庁内・アドバイザー委員会の開催結果

【三鷹駅北口交通環境基本方針策定庁内委員会・アドバイザー委員会合同会議】

- 庁内委員会では、三鷹駅北口周辺の新たな交通体系や三鷹駅北口駅前広場の機能及び規模等に関する「三鷹駅北口交通環境基本方針」について、関係部署が集まり検討します。
- アドバイザー委員会では、都市交通計画などを専門分野とする学識経験者より、専門的な見地から庁内委員会へ助言を行います。

日時：令和4年12月1日（金）
場所：武蔵野市役所

■ 「研究会報告書（案）」の取りまとめ状況について」と「今後の進め方について」の2つのテーマで意見交換をしました。

■ 庁内・アドバイザー委員会（令和4年度 第1回）の開催結果

関係部署で構成する庁内委員会と、都市交通計画等を専門分野とする学識経験者で構成するアドバイザー委員会の合同会議の開催結果を報告しました。委員会では研究会での意見交換の内容や、市の想定する今後の進め方について、専門的な見地から助言がありました。

■ 報告書（案）と今後の進め方について



・冗長性を持たせて拡張することは重要であり、特に災害時の対応を想定すると、十分な空間を確保することが求められる



・シェア型の交通について、区部をはじめ普及しつつあるが、三鷹駅北口においても地域ニーズがあるのか研究してほしい



・駅周辺のデザインにばらつきがないように、三鷹駅北口のコンセプトに合った街づくりを進めてほしい



・特に地権者の生活への影響が大きいため、丁寧に説明し、意向を確認しながら検討を進めてほしい

・今後の具体的検討を進めるうえでも、街の利用者の声や本研究会のような三鷹駅北口に関わる団体の声を受け止め、連携して推進できるような体制を築いてほしい



・交通手段が自家用車から自転車に変わることは肯定的に捉えるべきではないかと紹介されたが、まずは現状の課題である安全な交通環境の整備に優先的に取り組んでほしい。



・（駅前広場を2ロータリー化した場合）一般車両のロータリー側をイベントの時だけ通行止めにし、駅前を地域のお祭り等で使用できると、吉祥寺駅や武蔵境駅にはない三鷹駅の良さとして、市民に魅力的に映る



・自転車利用の多さは三鷹駅北口の特徴の一つであることから、歩行者中心の街づくりを推進しつつも、自転車利用者の視点にたった迷わず安全に移動できる環境づくりを検討してほしい

・歩行者と自転車の空間を住み分けられるよう、にぎわいのエリア内、特に駅前広場や歩行者専用化する道路内に進入する自転車に対して、押し歩きを誘導する等の安全利用啓発や整備形態を検討してほしい



・建替え時のルールを事前で作成することは、路外の荷捌きスペース等の必要な交通インフラを整備、誘導するうえでも有効である

・駅周辺のパブリックスペースのデザイン調整は重要であり、市民意見を取り入れた三鷹駅北口のコンセプトに合わせて、景観の専門家による十分な検討が必要である。また、民間開発のデザイン調整については、第三者的立場からの調整機能を持たせると良い



・長期的には、自家用車に頼らない街づくりを目指してもらいたい

・荷捌き車両の扱いについては、具体的に検討してほしい



・将来の社会ニーズは変化していくため、その変化を把握しながら「基本方針」を策定すると良い

・吉祥寺駅や武蔵境駅にはない面白い空間ができれば、三鷹駅北口の新しい顔になるのではないかと

・今回は「交通」というハードの整備に関する検討であったが、今後は街でどのように楽しめるかをあわせて考えていきたい

研究会の記録を報告書に取りまとめました

令和4年2月から計5回にわたり意見交換を行った研究会の記録を報告書に取りまとめました。報告書はまちづくり推進課や右記の二次元バーコードを読み取っていただき、市ホームページでご覧いただけます。



<https://bit.ly/3luSedT>

■ 報告書の概要

■ 将来イメージ（概ね2030年代）

補助幹線道路の完成を契機として行う再整備にあたっては、現状の問題点を解消したうえで、次世代のために、三鷹駅北口のポテンシャルを最大限に発揮した持続可能な街づくりを目指すべきである。

そのためには、駅前に必要な交通結節機能を確保したうえで、駅周辺を単なる「乗換中心の空間」から歩行者を中心に据えたゆとりある「人が集い交流する駅まち空間」に改変していく必要がある。

■ 考え方1 駅周辺道路の交通体系の再編

補助幹線道路の整備による交通環境の変化を契機として交通体系を再編することにより「歩行者を中心とするにぎわいのエリア」を創出すべきである。

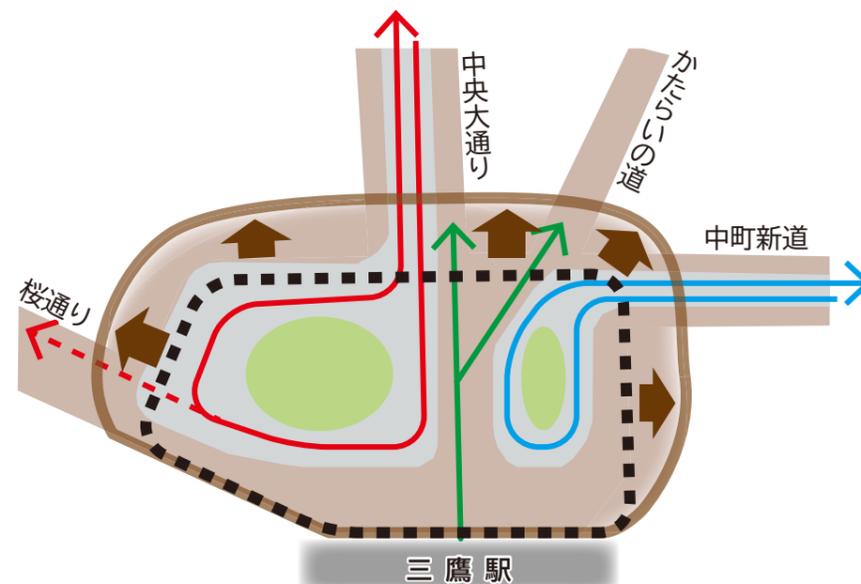
主要4道路（中央大通り、かたらいの道、桜通り、中町新道）は、役割や機能を明確にしたうえで、歩行者や公共交通等の優先される交通手段に応じて道路空間を再配分すべきである。

■ 考え方2 駅前広場の2ロータリー化

駅前広場を2ロータリー化することにより、錯綜する交通動線を整理化するとともに、日常生活を支える歩行環境の充実を優先し、駅前広場と主要4道路につながる一体的な歩行空間を形成すべきである。

■ 考え方3 駅前広場の拡張

歩行者のための通行・滞留空間を拡充するほか、公共交通の高い利便性を維持したうえで、多様な交通手段の円滑な乗換機能を確保するために、駅前広場を拡張すべきである。拡張にあたっては、長期的視点から考え、人口の増加や高齢化の進展、自動運転技術や新たな移動手段の実用化、災害の激甚化等の不確実な将来の変化に備え、冗長性（余裕）を持たせることが重要である。



〈駅前広場の拡張概念図〉

- 凡例
- ← 公共交通
 - ← 一般車
 - ← 歩行者
 - ⋯ 現況駅前広場
 - 拡張駅前広場
- ※拡張範囲は未定